

洋上風力発電に関するアンケート調査 報 告 書

令和3年10月

壱 岐 市

(業務委託：国際航業株式会社)

目 次

1. 調査の概要	1
1.1. アンケート調査の概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査内容	1
(3) 調査主体	1
(4) 回収結果	1
(5) 調査結果の表記等	1
1.2. 回答者の属性	2
(1) 年齢	2
(2) 性別	2
(3) 居住地区	3
(4) 居住年数	3
(5) 職業	5
2. 調査結果	6
2.1. 市の再生可能エネルギー、地球温暖化対策の取り組みに対する認知度	6
(1) 気候非常事態宣言について	6
(2) 気候非常事態宣言の情報源について	8
(3) 気候非常事態宣言に基づく取り組みについて	9
2.2. 洋上風力発電に関する認知度	11
(1) 洋上風力発電について	11
(2) 再エネ海域利用法の施行について	13
(3) 長崎県のゾーニング事業や壱岐市洋上風力発電等導入検討協議会について	15
2.3. 洋上風力発電への期待・懸念・要望等	17
(1) 洋上風力発電導入により期待されること	17
(2) 洋上風力発電導入に対し心配されること、気になること	19
(3) 洋上風力発電から生まれる事業収益の利用目的	21
3. その他のご意見等(自由回答)	23
3.1. とりまとめ方法	23
3.2. 自由回答の概要	23
3.3. 分野ごとの代表的な意見（一部抜粋）	24
(1) 洋上風力発電に肯定的なご意見（13件）	24
(2) 洋上風力発電に懐疑的、懸念あり（42件）	24
(3) 事業収益の使い方に関するご意見（2件）	26
(4) 洋上風力発電以外の再生可能エネルギーの利用（6件）	26
(5) 合意形成、住民への周知・説明に関するご意見（17件）	26

(6) 気候非常事態宣言、地球温暖化等に関するご意見 (11 件)	27
(7) アンケートに対するご意見 (9 件)	27
(8) その他 (2 件)	28
4. 参考資料:調査票.....	29

1. 調査の概要

1.1. アンケート調査の概要

(1) 調査目的

壱岐市の脱炭素化の取り組みや洋上風力発電に関する地域住民の理解醸成を図るとともに、洋上風力発電に対する地域住民の意見や要望等を把握し、今後の洋上浮力発電導入可能性検討の基礎資料とすることを目的としています。

(2) 調査内容

- ① 調査地域 壱岐市全域
- ② 調査対象 令和3年8月末現在、壱岐市に住民登録している市民
- ③ 対象人数 1,008人
- ④ 抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出
(住民基本台帳に登録されている満20歳以上80歳未満の男女を年代ごとに6つに区分し抽出 ※抽出数は年代ごとに168人)
- ⑤ 調査時期 令和3年9月17日(金)～10月5日(火)(10月6日消印有効)
- ⑥ 調査方法 郵送による配布・回収(回答は郵送に加えてWebサイト※でも受付)
※アンケート調査票にQRコードを掲載し、Webサイトから同様の内容で回答可能としました。

(3) 調査主体

調査主体 : 壱岐市 SDGs 未来課
集計・分析: 国際航業株式会社

(4) 回収結果

配布数	回収数	回収率
1,008 件	455 件 うち Web 上での回答 67 件	45.1%

(5) 調査結果の表記等

- ① 調査結果の回答比率はその設問の回答者数(無回答※を含む)を母数として百分率(%)で表示しています。※単一回答箇所でも複数の回答が選択されていた場合は原則無回答として集計しています。
- ② 回答比率は、小数点第2位を四捨五入して算出し、百分率(%)で表記しています。このため、回答比率の合計が100%にならない場合があります。
- ③ グラフ中の「n」はその設問の回答者数を示しています。
- ④ クロス集計では、属性項目の無回答を除いて集計しています。このため、クロス集計の回答者数(n)と、単純集計(全体)の回答数が合致しないことがあります。
- ⑤ クロス集計において、属性ごとのサンプル数が少ない(n=30未満)場合には、参考値として掲載しています。

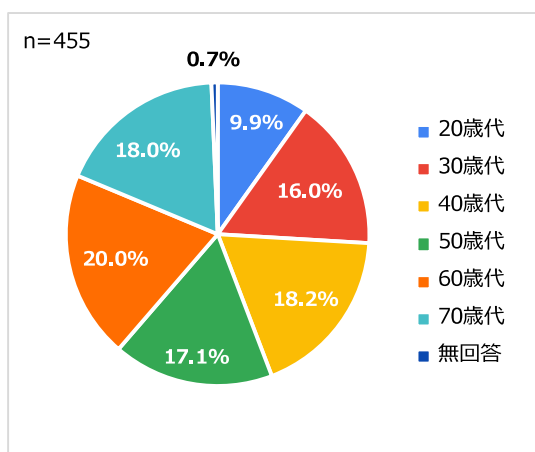
1.2. 回答者の属性

(1) 年齢

I-1 あなたの年齢をお教えてください。

年齢は、「60歳代」が20.0%、「40歳代」が18.2%、「70歳代」が18.0%、「50歳代」が17.1%、「30歳代」が16.0%、「20歳代」が9.9%となっています。

他の年代に比べて、「20歳代」の回答数が少なくなっています。



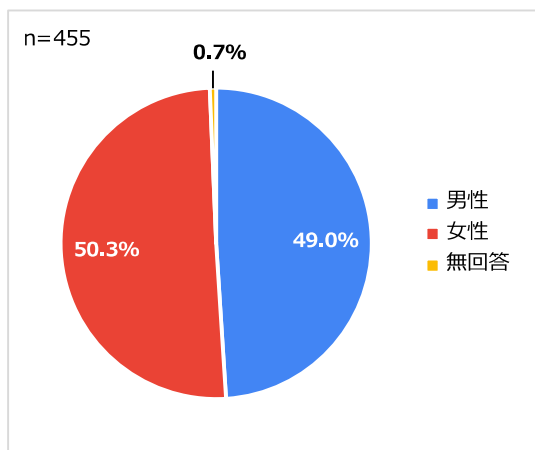
No.	選択肢	回答数	割合
1	20歳代	45	9.9%
2	30歳代	73	16.0%
3	40歳代	83	18.2%
4	50歳代	78	17.1%
5	60歳代	91	20.0%
6	70歳代	82	18.0%
-	無回答	3	0.7%
	全体	455	100.0%

※無回答には無効回答を含む

(2) 性別

I-2 あなたの性別をお教えてください。

性別は、「男性」が49.0%、「女性」が50.3%となっています。



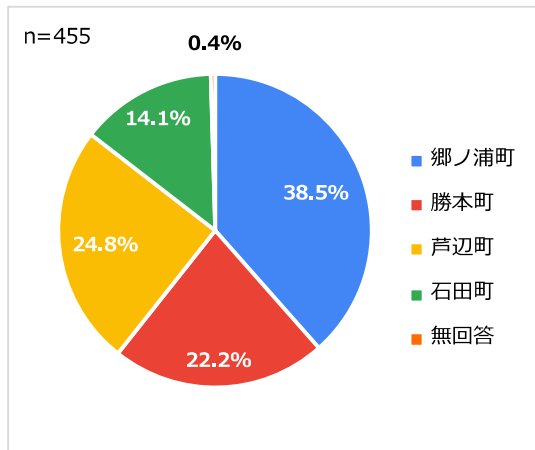
No.	選択肢	回答数	割合
1	男性	223	49.0%
2	女性	229	50.3%
-	無回答	3	0.7%
	全体	455	100.0%

※無回答には無効回答を含む

(3) 居住地区

I-3 あなたの居住地区をお教えてください。

居住地区は、「郷ノ浦町」が38.5%となっており、「芦辺町」が24.8%、「勝本町」が22.2%、「石田町」が14.1%となっています。



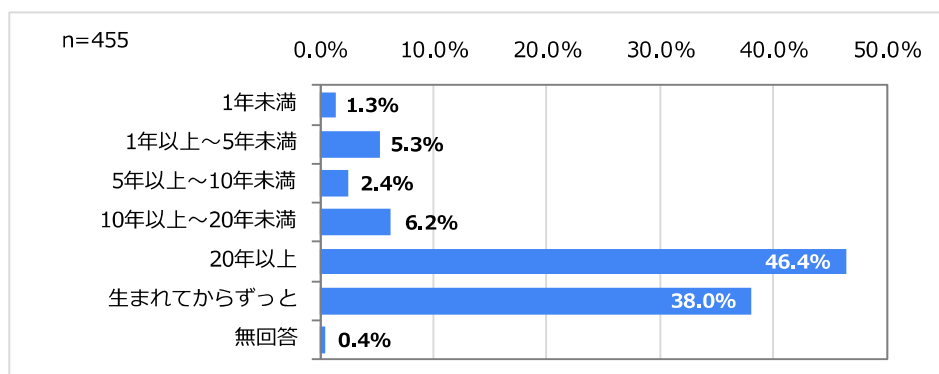
No.	選択肢	回答数	割合
1	郷ノ浦町	175	38.5%
2	勝本町	101	22.2%
3	芦辺町	113	24.8%
4	石田町	64	14.1%
-	無回答	2	0.4%
	全体	455	100.0%

(4) 居住年数

I-4 あなたは壱岐市内に合計で何年くらい住んでいますか。

居住年数は、「20年以上」が46.4%、「生まれてからずっと」が38.0%となっています。これらを合わせると84.4%となり、壱岐市に長く居住されている方からの回答が多くなっています。

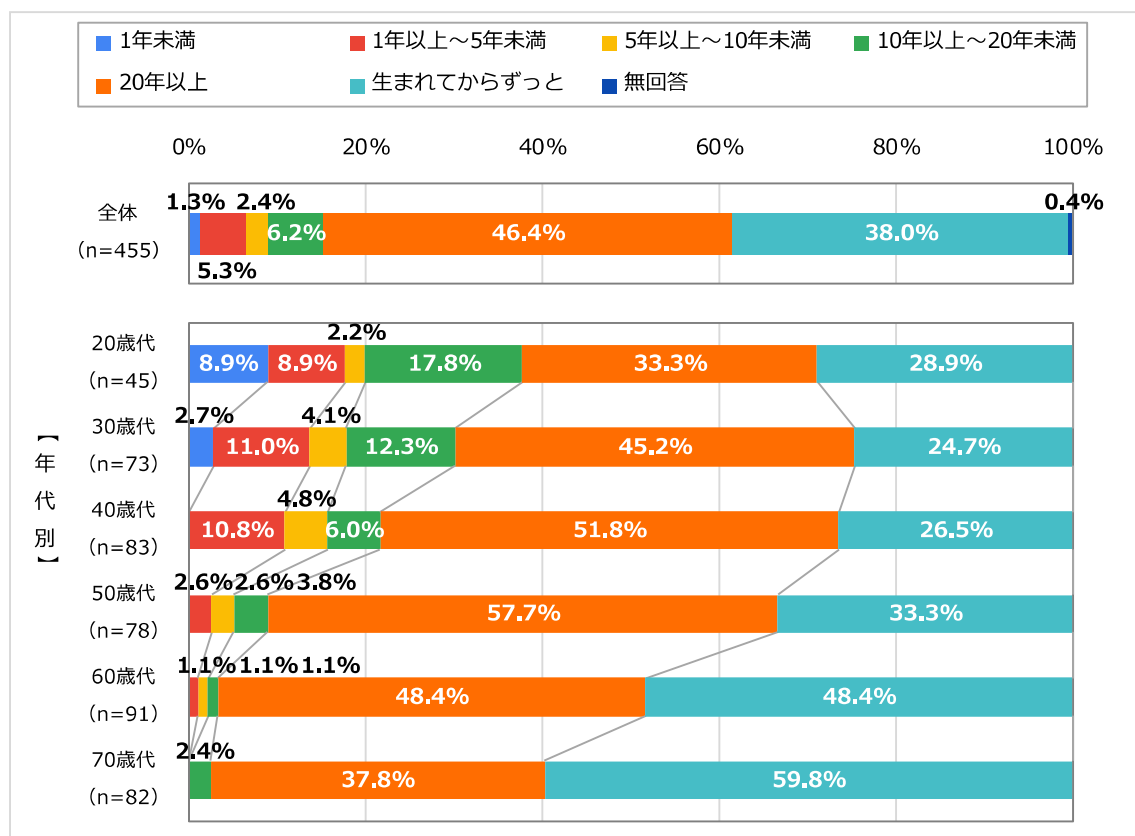
また、「10年以上～20年未満」が6.2%、「1年以上～5年未満」が5.3%、「5年以上～10年未満」が2.4%、「1年未満」が1.3%となっています。



No.	選択肢	回答数	割合
1	1年未満	6	1.3%
2	1年以上～5年未満	24	5.3%
3	5年以上～10年未満	11	2.4%
4	10年以上～20年未満	28	6.2%
5	20年以上	211	46.4%
6	生まれてからずっと	173	38.0%
-	無回答	2	0.4%
	全体	455	100.0%

年代別では、20 歳代～40 歳代で「10 年未満」の居住者の割合が高く、20 歳代では 20.0%、30 歳代では 17.8%、40 歳代では 15.7%となっています。また、20 歳代では 37.8%、30 歳代では 30.1%、40 歳代では 21.7%が、居住期間が「20 年未満」と回答しています。

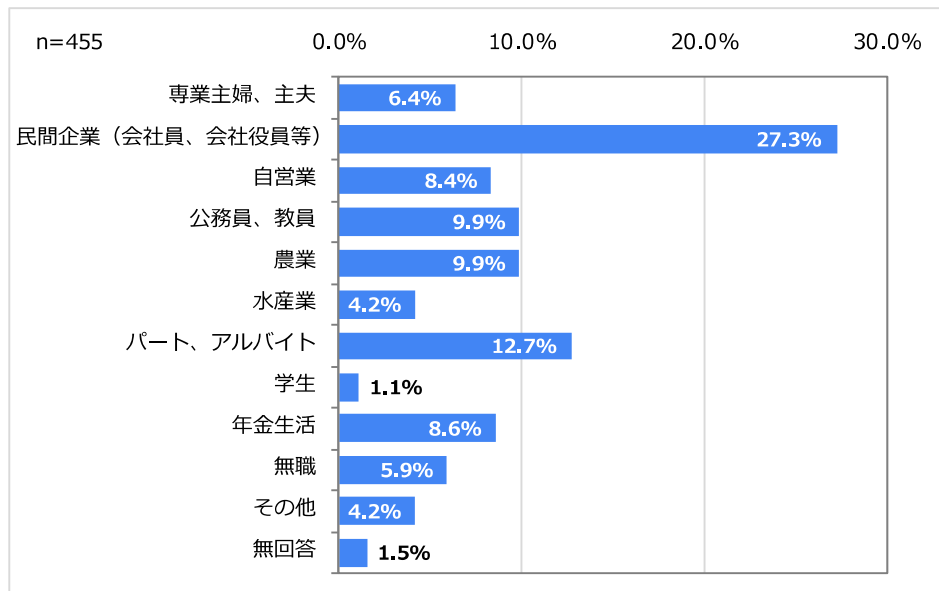
50 歳代以上では「20 年未満」と回答した割合は 1 割未満で、「生まれてからずっと」もしくは「20 年以上」居住しているとの回答が 9 割以上を占めています。



(5) 職業

I-5 あなたの職業をお教えてください。

職業は、「民間企業（会社員、会社役員等）」が 27.3%、「パート・アルバイト」が 12.7%、「公務員、教員」と「農業」が 9.9%、「年金生活」が 8.6%、「自営業」が 8.4%となっています。



No.	選択肢	回答数	割合
1	専業主婦、主夫	29	6.4%
2	民間企業 (会社員、会社役員等)	124	27.3%
3	自営業	38	8.4%
4	公務員、教員	45	9.9%
5	農業	45	9.9%
6	水産業	19	4.2%
7	パート、アルバイト	58	12.7%
8	学生	5	1.1%
9	年金生活	39	8.6%
10	無職	27	5.9%
11	その他	19	4.2%
-	無回答	7	1.5%
	全体	455	100.0%

2. 調査結果

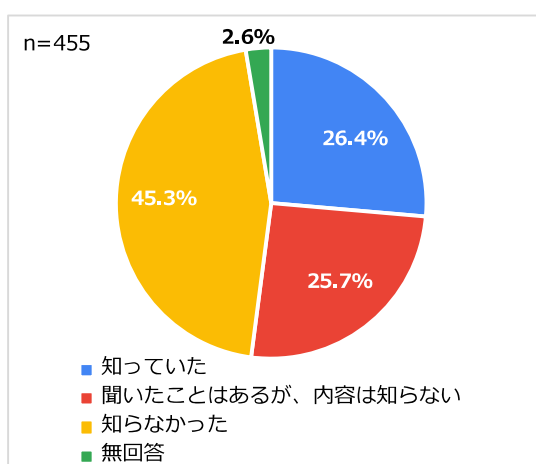
2.1. 市の再生可能エネルギー、地球温暖化対策の取り組みに対する認知度

(1) 気候非常事態宣言について

Ⅱ-1 壱岐市では、壱岐市周辺で発生している気候変動に伴う自然災害の増加、海水温の上昇に伴う藻場の減少、漁獲量の低下等を踏まえ、2019年9月25日に日本で初めて「気候非常事態宣言」を発出しました。このことについて、ご存じでしたか。

「気候非常事態宣言」については、「知らなかった」が45.3%、「知っていた」が26.4%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が25.7%となっています。

「知っていた」と「聞いたことはあるが、内容は知らない」を合わせると52.1%となります。



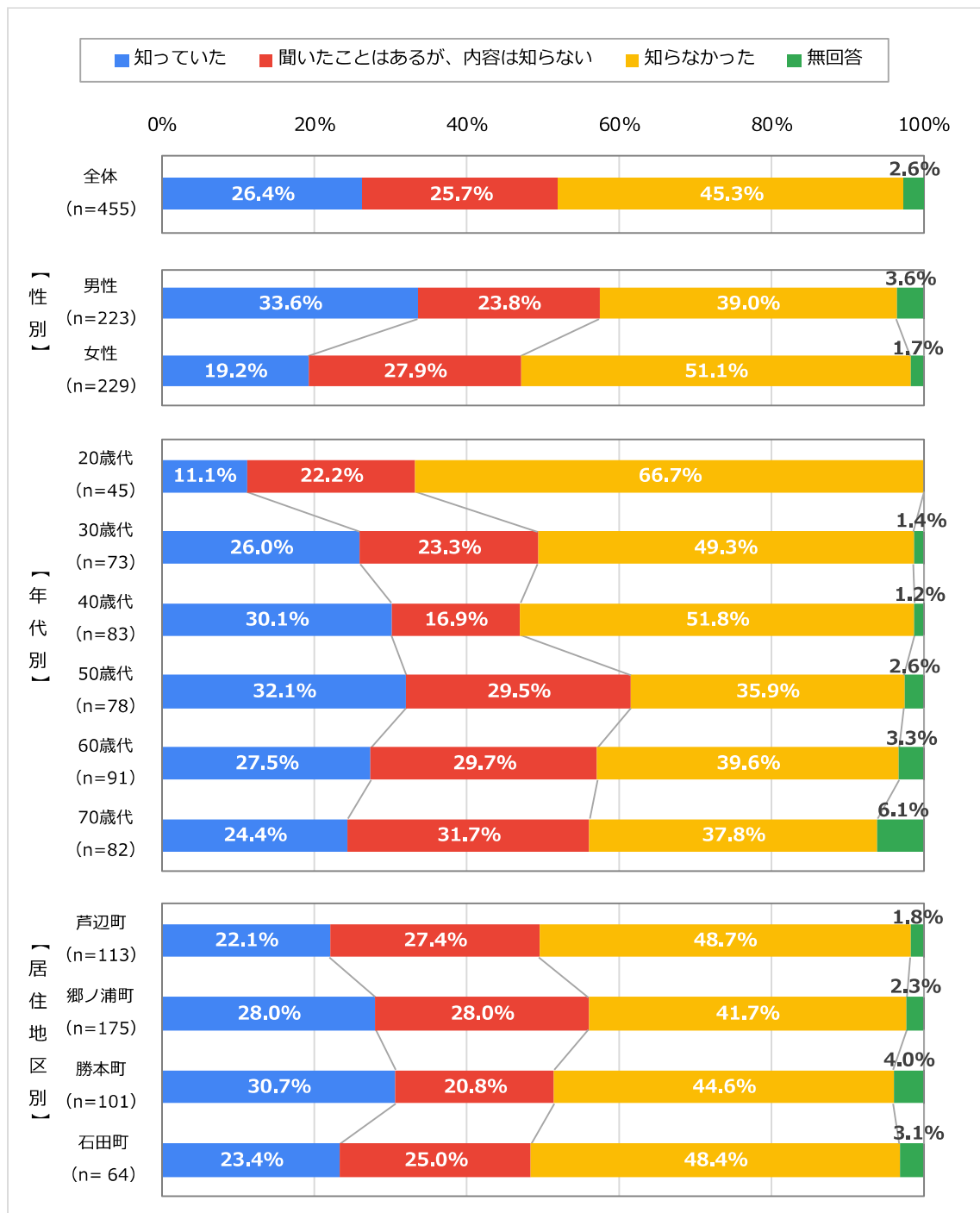
No.	選択肢	回答数	割合
1	知っていた	120	26.4%
2	聞いたことはあるが、内容は知らない	117	25.7%
3	知らなかった	206	45.3%
-	無回答	12	2.6%
	全体	455	100.0%

【属性別】

男女別では、女性の「知らなかった」が51.1%と5割を超えており、男性の39.0%に比べて高くなっています。

年代別では、20歳代の「知らなかった」が66.7%と、20歳代の2/3が「知らなかった」と回答しています。また、30歳代、40歳代についても「知らなかった」が約半数を占めており、50歳代以上に比べて、20歳代～40歳代の「知らなかった」の割合が高くなっています。

居住地区別では、「知らなかった」が芦辺町で48.7%、石田町で48.4%と、郷ノ浦町、勝本町よりもやや高くなっています。

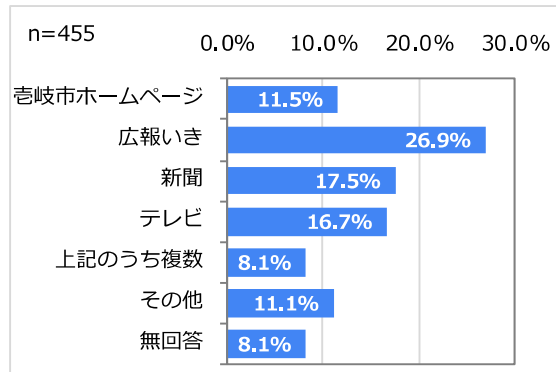


(2) 気候非常事態宣言の情報源について

Ⅱ-2 Ⅱ-1で「知っていた」、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答された方にお聞きします。壱岐市の「気候非常事態宣言」について、どのような方法で知りましたか。

「気候非常事態宣言」を知った方法は、「広報いき」が26.9%、「新聞」が17.5%、「テレビ」が16.7%、「壱岐市ホームページ」が11.5%、「その他」が11.1%となっています。

このほか、ホームページや広報誌など複数の情報源から知ったという回答が8.1%となっています。



No.	選択肢	回答数	割合
1	壱岐市ホームページ	27	11.5%
2	広報いき	63	26.9%
3	新聞	41	17.5%
4	テレビ	39	16.7%
5	上記のうち複数	19	8.1%
6	その他	26	11.1%
-	無回答	19	8.1%
	全体	234	100.0%

(3) 気候非常事態宣言に基づく取り組みについて

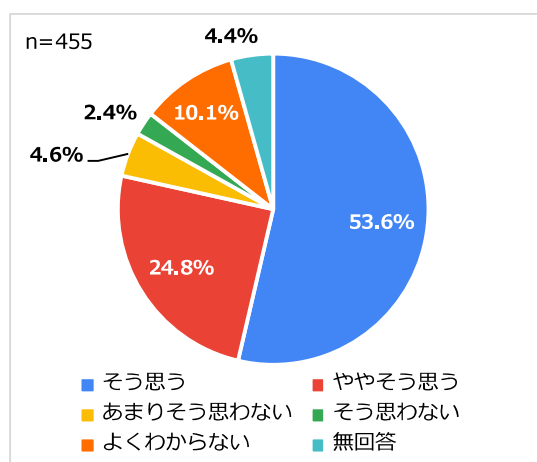
Ⅱ-3 荏岐市では「気候非常事態宣言」に基づき、2050 年までに CO2 排出量を実質的ゼロとし、脱炭素化を実現するための取り組みを進めています。

この取り組みの 1 つとして、2050 年までに市内で利用するエネルギーを化石燃料から、太陽光や風力などの地域資源に由来する再生可能エネルギーに完全移行できるよう、民間企業などとの連携した取り組みをさらに加速させることとしています。

荏岐市において、このような取り組みを進めていくことは大切だと思いますか。

「気候非常事態宣言」に基づく取り組みを進めていくことが大切と思うかについては、「そう思う」が 53.6%、「ややそう思う」が 24.8%、「あまりそう思わない」が 4.6%、「そう思わない」が 2.4%となっています。

「そう思う」と「ややそう思う」で 78.4%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」で 7.0%となり、回答者の多くは非常事態宣言に基づく取り組みを進めていくことが大切だと感じている結果となりました。



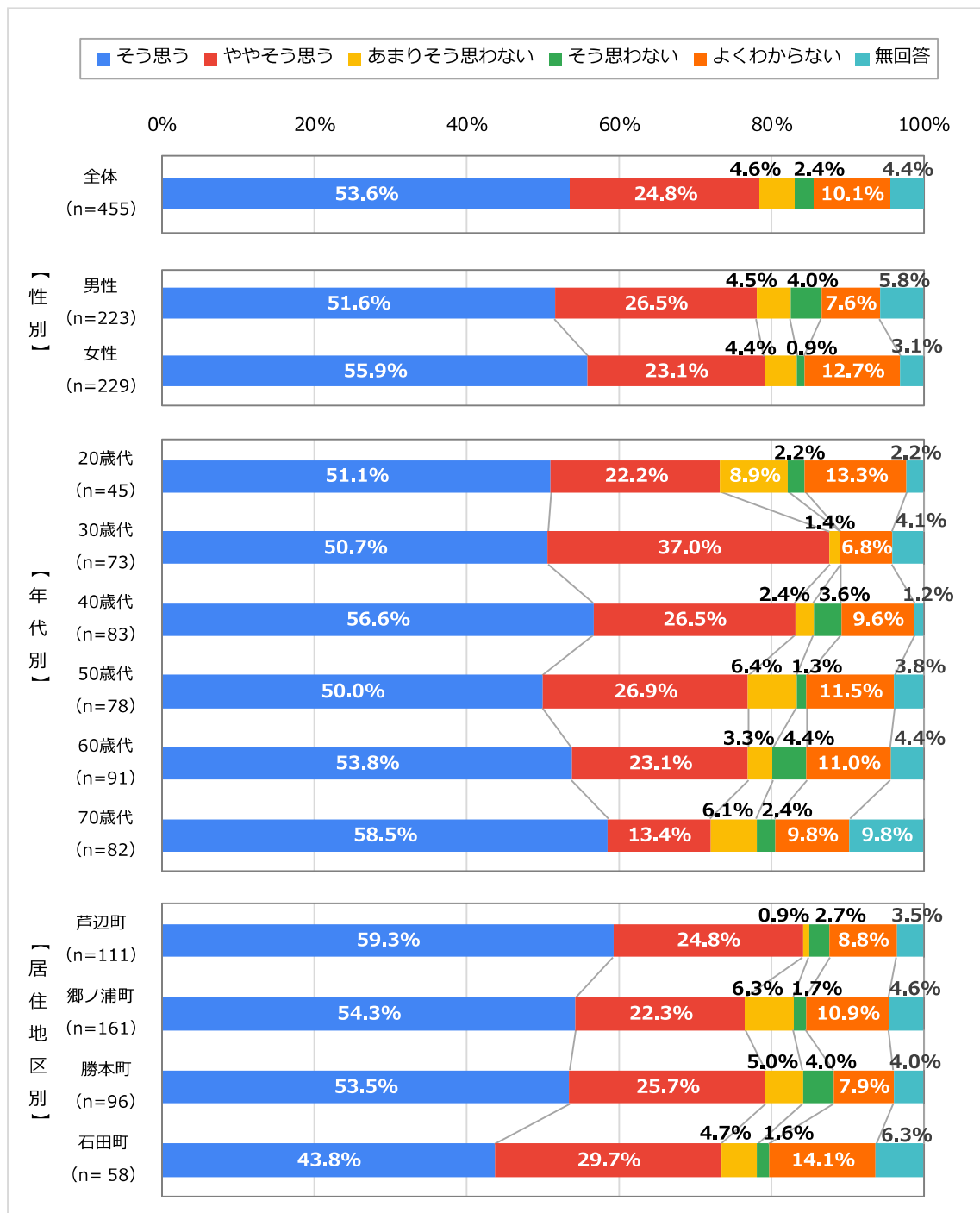
No.	選択肢	回答数	割合
1	そう思う	244	53.6%
2	ややそう思う	113	24.8%
3	あまりそう思わない	21	4.6%
4	そう思わない	11	2.4%
5	よくわからない	46	10.1%
-	無回答	20	4.4%
	全体	455	100.0%

【属性別】

男女別では、男性、女性ともに「そう思う」と「ややそう思う」でそれぞれ 78.1%、79.0%となっています。

年代別では、30 歳代と 40 歳代の「そう思う」と「ややそう思う」が 8 割を超えています。他の年代に比べて低いのは、20 歳代と 70 歳代で、「そう思う」と「ややそう思う」がそれぞれ 73.3%、71.9%となっています。

居住地区別では、芦辺町の「そう思う」と「ややそう思う」が 8 割を超え、他の地区より高くなっています。他の地区に比べて低いのは、石田町で「そう思う」と「ややそう思う」を合わせて 73.5%となっています。



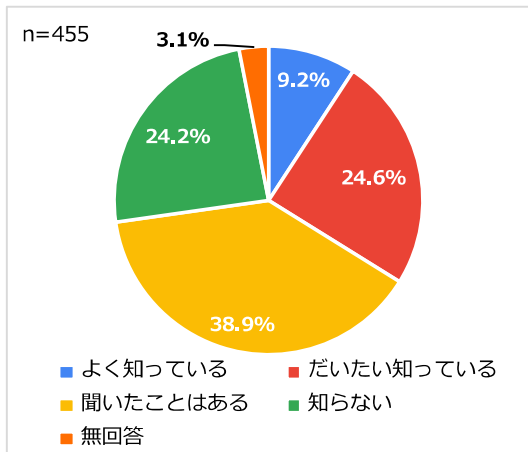
2.2. 洋上風力発電に関する認知度

(1) 洋上風力発電について

Ⅲ-1 陸上ではなく海上に風車を設置する洋上風力発電についてご存じですか。

洋上風力発電について、「聞いたことはある」が 38.9%、「だいたい知っている」が 24.6%、「よく知っている」が 9.2%となり、これらを合わせると 72.7%となります。

一方で、「知らない」が 24.2%と、回答者の約 4 分の 1 を占めています。



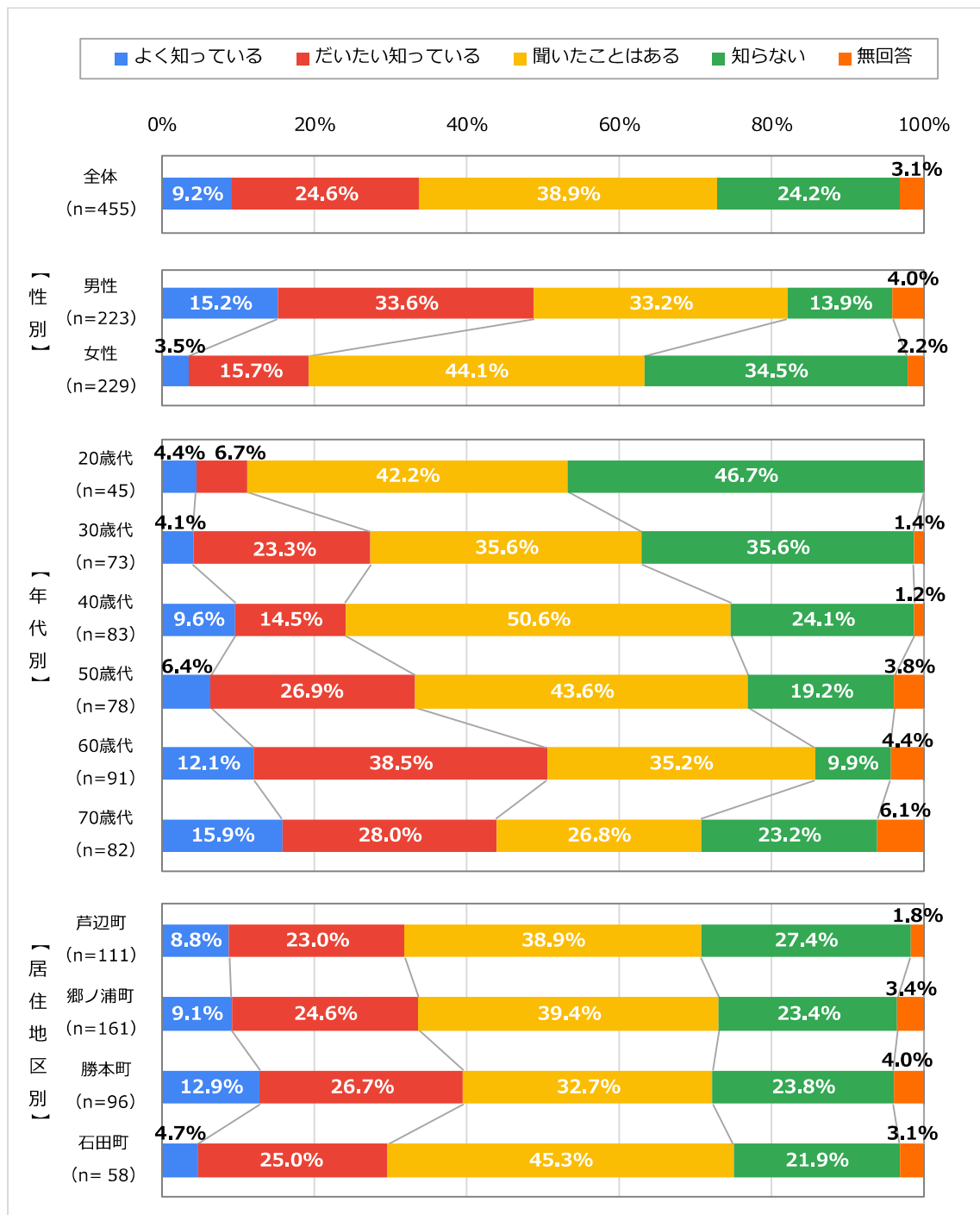
No.	選択肢	回答数	割合
1	よく知っている	42	9.2%
2	だいたい知っている	112	24.6%
3	聞いたことはある	177	38.9%
4	知らない	110	24.2%
-	無回答	14	3.1%
	全体	455	100.0%

【属性別】

男女別では、男性に比べて女性の「知らない」の割合が高く、34.5%と高くなっています。

年代別では、「知らない」が 20 歳代で 46.7%、30 歳代で 35.6%と、他の年代に比べて高くなっています。一方で、60 歳代は「知らない」が 9.9%と他の年代より低く、「よく知っている」、「だいたい知っている」、「聞いたことはある」を合わせると、回答者の 8 割を超えています。

居住地区別では、芦辺町の「知らない」が 27.4%と、他の地区より「知らない」の割合がやや高くなっています。

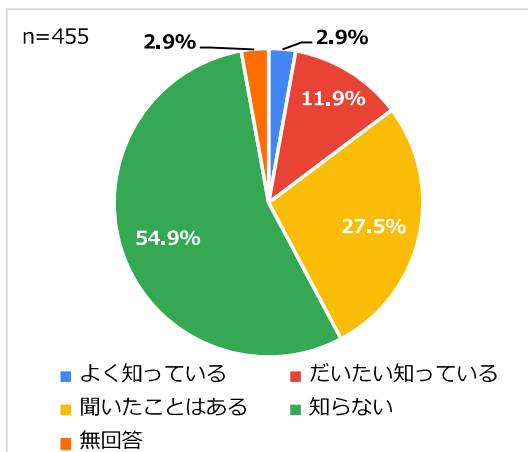


(2) 再エネ海域利用法の施行について

Ⅲ-2 再エネ海域利用法の施行について、ご存じでしたか。

再エネ海域利用法の施行について、「知らない」が 54.9%、「聞いたことはある」が 27.5%、「だいたい知っている」が 11.9%、「よく知っている」が 2.9%となっています。

「よく知っている」と「だいたい知っている」で 14.8%、「聞いたことはある」を合わせても 42.3%であり、「知らない」の割合が高くなっています。



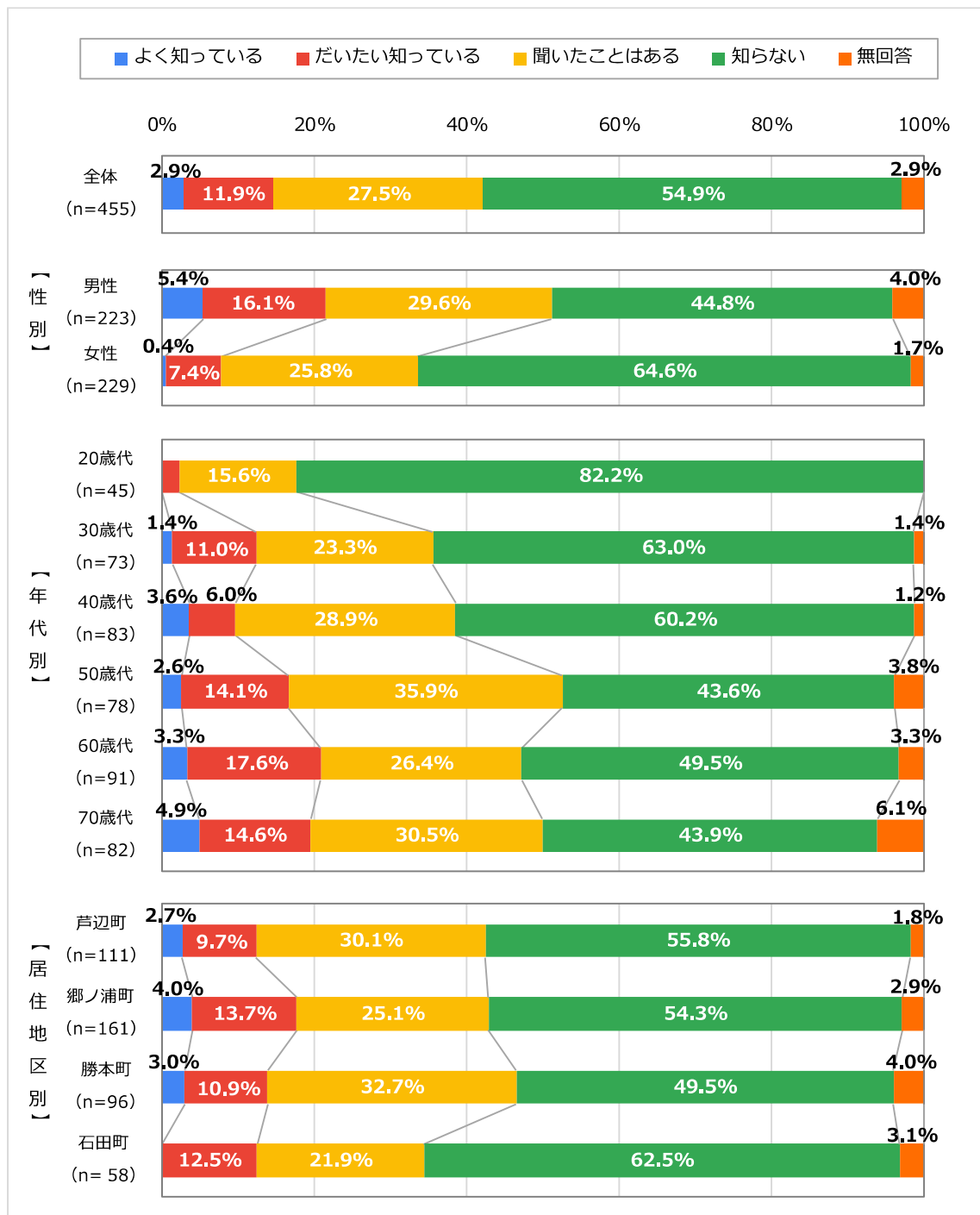
No.	選択肢	回答数	割合
1	よく知っている	13	2.9%
2	だいたい知っている	54	11.9%
3	聞いたことはある	125	27.5%
4	知らない	250	54.9%
-	無回答	13	2.9%
	全体	455	100.0%

【属性別】

男女別では、男性に比べて女性の「知らない」の割合が高く、64.6%と高くなっています。

年代別では、20 歳代の「知らない」が 8 割を超えています。また、30 歳代、40 歳代も「知らない」が 63.0%、60.2%と 6 割を超えています。一方で、50 歳代以上では「よく知っている」、「だいたい知っている」、「聞いたことはある」を合わせて 5 割前後となり、「知らない」と回答した割合と同程度となっています。

居住地区別では、石田町の「知らない」が 62.5%と、他の地区より「知らない」の割合が高くなっています。



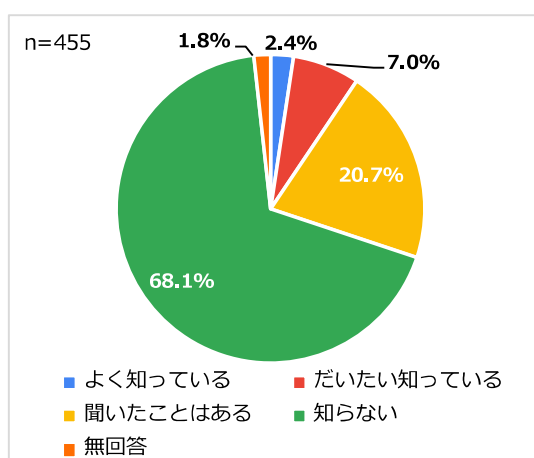
(3) 長崎県のゾーニング事業や壱岐市洋上風力発電等導入検討協議会について

Ⅲ-3 長崎県のゾーニング事業や壱岐市洋上風力発電等導入検討協議会について、ご存じでしたか。

長崎県のゾーニング事業や壱岐市洋上風力発電等導入検討協議会について、「知らない」が68.1%、「聞いたことはある」が20.7%、「だいたい知っている」が7.0%、「よく知っている」が2.4%となっています。

「よく知っている」と「だいたい知っている」で9.4%、「聞いたことはある」を合わせても30.1%であり、「知らない」の半分以上となっています。

洋上風力発電や再エネ海域利用法に比べて「知らない」の割合が高く、長崎県のゾーニング事業や壱岐市洋上風力発電等導入検討協議会に対する認知度が低いことが伺えます。



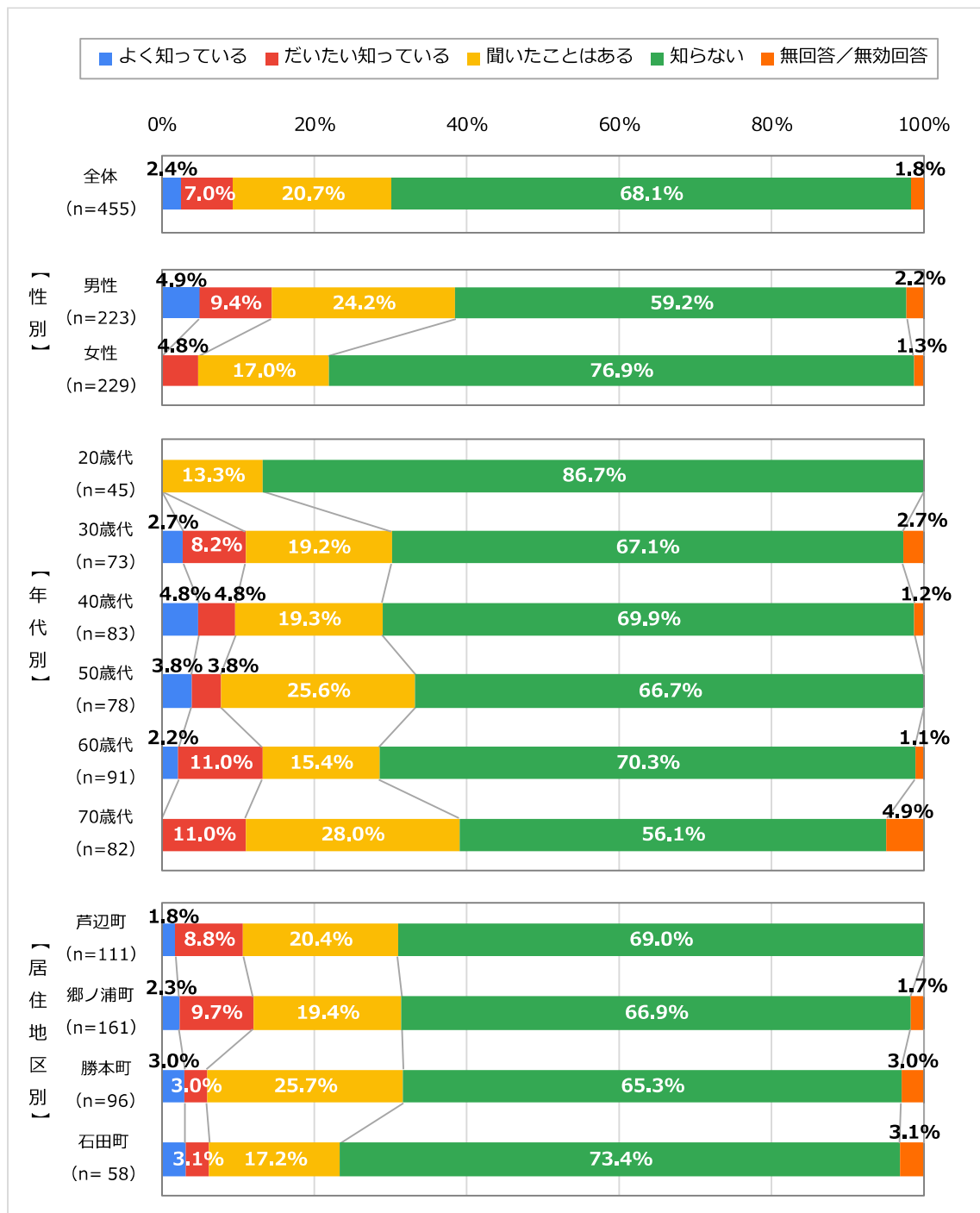
No.	選択肢	回答数	割合
1	よく知っている	11	2.4%
2	だいたい知っている	32	7.0%
3	聞いたことはある	94	20.7%
4	知らない	310	68.1%
-	無回答	8	1.8%
	全体	455	100.0%

【属性別】

男女別では、男性に比べて女性の「知らない」の割合が高く、76.9%と高くなっています。

年代別では、20歳代の「知らない」が8割を超えています。また、60歳代も「知らない」が7割を超え、他の年代より高くなっています。一方で、70歳代は「知っている」、「だいたい知っている」、「聞いたことはある」を合わせて4割弱となっており、他の年代よりも認知度が高くなっています。

居住地区別では、石田町の「知らない」が73.4%と、他の地区より「知らない」の割合が高くなっています。



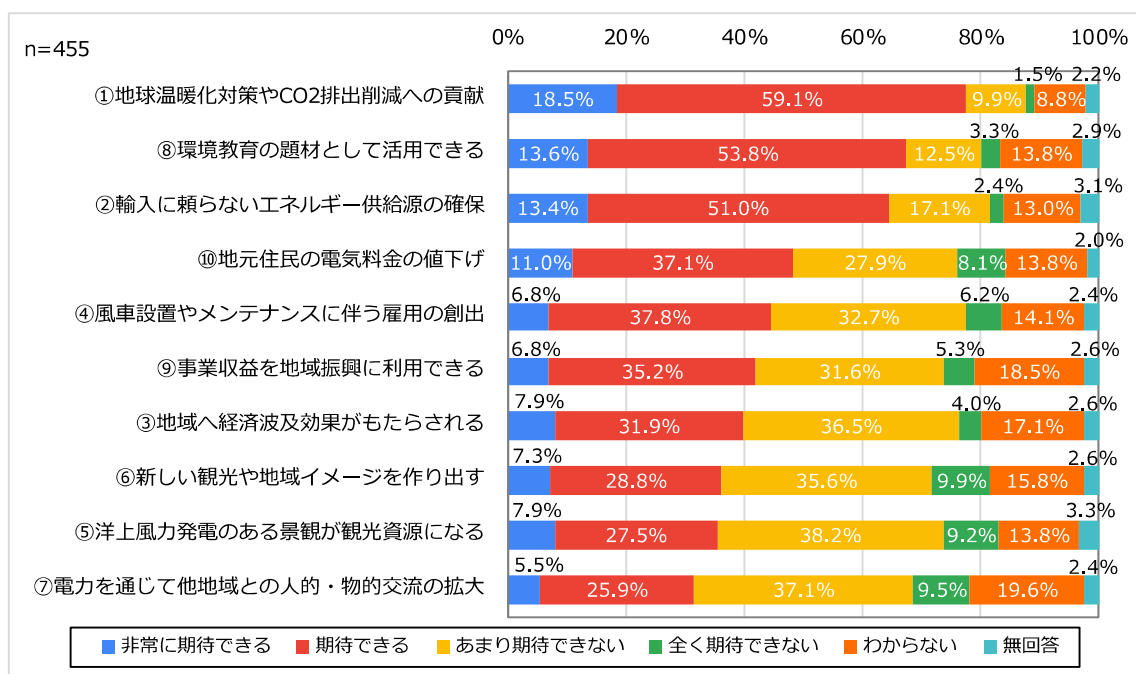
2.3. 洋上風力発電への期待・懸念・要望等

(1) 洋上風力発電導入により期待されること

IV-1 洋上風力発電の導入により、期待されることについて、どのように考えますか。

以下に示す 10 項目のうち、「非常に期待できる」、「期待できる」を合わせた割合が回答者の半数以上となったのは、「①地球温暖化対策や CO2 排出削減への貢献」、「⑧環境教育の題材として活用できる」、「②輸入に頼らないエネルギー供給源の確保」の 3 項目で、それぞれ、77.6%、67.4%、64.4%となっています。

一方で、「⑦電力を通じて他地域との人的・物的交流の拡大」、「⑤洋上風力発電のある景観が観光資源になる」、「⑥新しい観光や地域イメージを作り出す」、「③地域へ経済波及効果がもたらされる」の 4 項目は、「非常に期待できる」と「期待できる」の割合よりも、「あまり期待できない」と「全く期待できない」の割合が高くなっています。



	非常に期待できる	期待できる	あまり期待できない	全く期待できない	わからない	無回答
①地球温暖化対策やCO2排出削減への貢献	84	269	45	7	40	10
⑧環境教育の題材として活用できる	62	245	57	15	63	13
②輸入に頼らないエネルギー供給源の確保	61	232	78	11	59	14
⑩地元住民の電気料金の値下げ	50	169	127	37	63	9
④風車設置やメンテナンスに伴う雇用の創出	31	172	149	28	64	11
⑨事業収益を地域振興に利用できる	31	160	144	24	84	12
③地域へ経済波及効果がもたらされる	36	145	166	18	78	12
⑥新しい観光や地域イメージを作り出す	33	131	162	45	72	12
⑤洋上風力発電のある景観が観光資源になる	36	125	174	42	63	15
⑦電力を通じて他地域との人的・物的交流の拡大	25	118	169	43	89	11

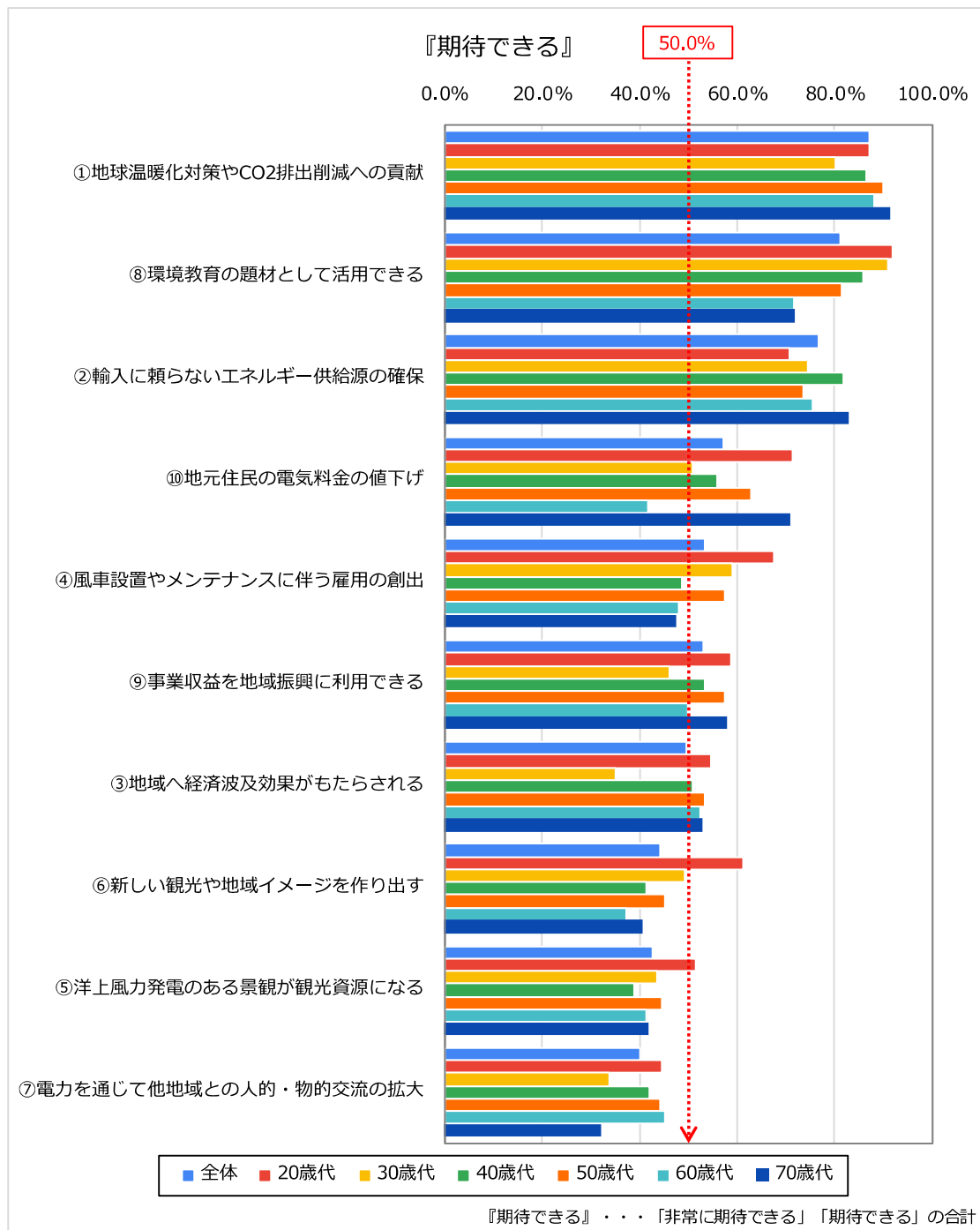
※無回答には無効回答を含む

※上記の図（グラフ）及び表は、「非常に期待できる」「期待できる」の割合が高い順に並べています。

【年代別の洋上風力発電に対する期待度】（「わからない」・「無回答」除いて集計）

『期待できる』の割合が高い項目のうち、「①地球温暖化対策やCO2排出削減への貢献」は50歳代以上のほうが40歳代以下よりも期待度が高くなっています。「⑧環境教育の題材として活用できる」は20～40歳代、「②輸入に頼らないエネルギー供給源の確保」は40歳代と70歳代、他の年代よりも期待度が高くなっています。

また、「⑩地元住民の電気料金の値下げ」は20歳代と70歳代で期待度が高く、「④風車設置やメンテナンスに伴う雇用の創出」、「⑥新しい観光や地域のイメージを作り出す」の2項目は20歳代で期待度が6割を超え、他の年代よりも高くなっています。



※上記の図（グラフ）は、回答者全体の「非常に期待できる」「期待できる」の割合が高い順に並べています。

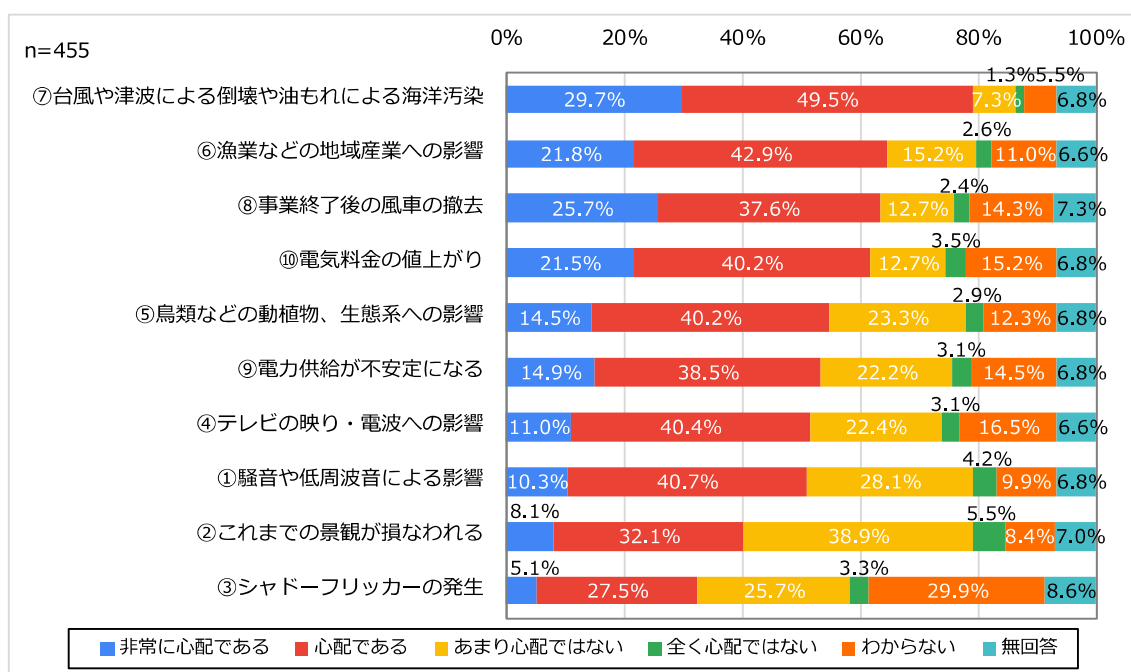
(2) 洋上風力発電導入に対し心配されること、気になること

IV-2 洋上風力発電の導入に対し、心配されることや気になることについて、どのように考えますか。

以下に示す 10 項目のうち、「全く心配ではない」「あまり心配ではない」に比べて、「心配である」「非常に心配である」の割合が高いのは、「③シャドーフリッカーの発生」、「②これまでの景観が損なわれる」を除く 8 項目で、いずれも半数以上の回答者が洋上風力発電の導入が心配と回答しています。

なかでも「⑦台風や津波による倒壊や油もれによる海洋汚染」の影響について関心が高く、「心配である」、「非常に心配である」の合計が 79.2%を占めています。

一方で、「②これまでの景観が損なわれる」については、「心配である」と「非常に心配である」の 40.2%に対し、「全く心配ではない」と「あまり心配ではない」が 44.1%と「全く心配ではない」と「あまり心配ではない」のほうがやや割合が高くなっています。



	非常に心配である	心配である	あまり心配ではない	全く心配ではない	わからない	無回答
⑦台風や津波による倒壊や油もれによる海洋汚染	135	225	33	6	25	31
⑥漁業などの地域産業への影響	99	195	69	12	50	30
⑧事業終了後の風車の撤去	117	171	58	11	65	33
⑩電気料金の値上がり	99	183	59	15	69	30
⑤鳥類などの動植物、生態系への影響	66	183	106	13	56	31
⑨電力供給が不安定になる	68	175	101	14	66	31
④テレビの映り・電波への影響	50	184	102	14	75	30
①騒音や低周波音による影響	47	185	128	19	45	31
②これまでの景観が損なわれる	37	146	177	25	38	32
③シャドーフリッカーの発生	23	125	117	15	136	39

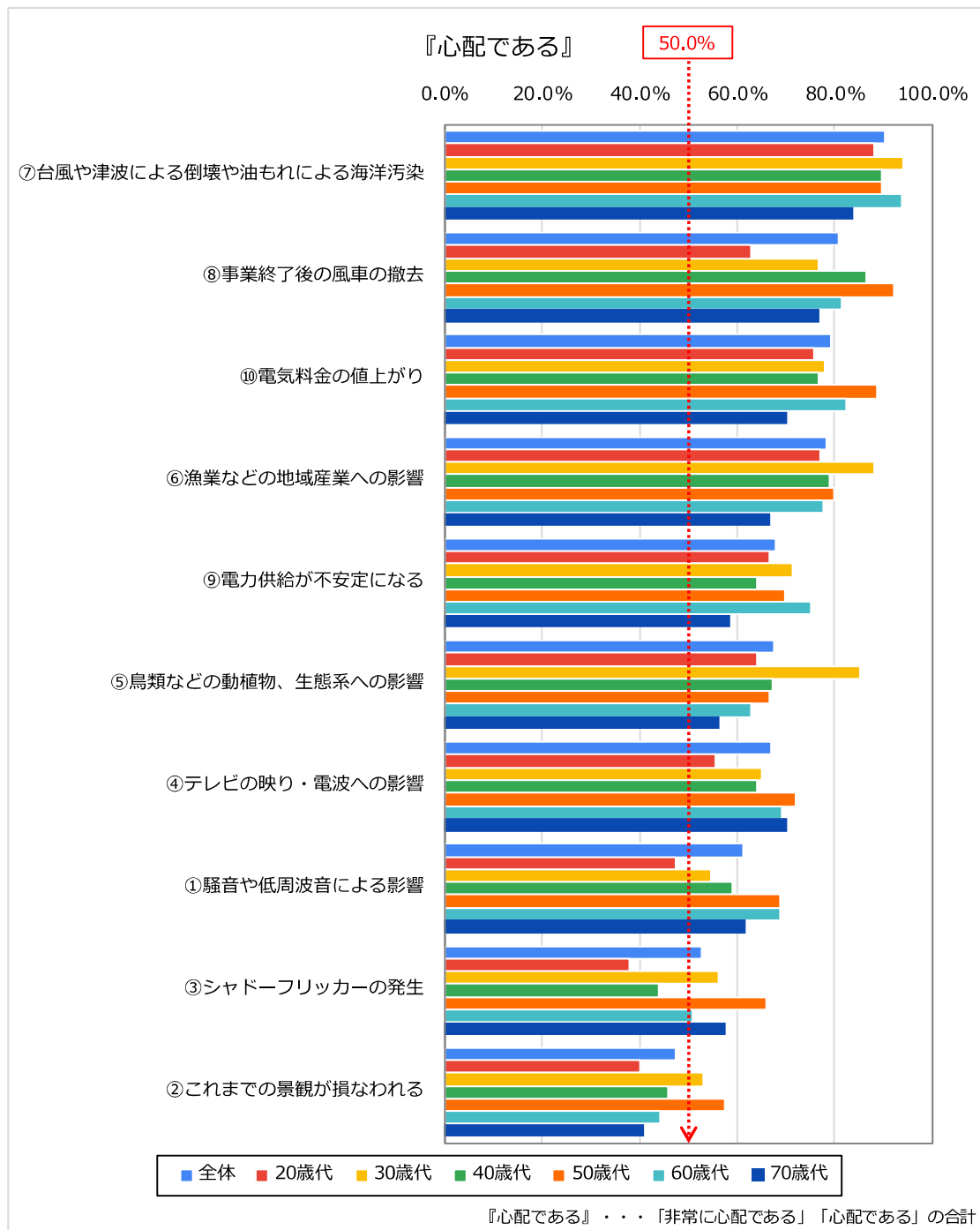
※無回答には無効回答を含む

※上記の図（グラフ）及び表は、「非常に心配である」「心配である」の割合が高い順に並べています。

【年代別の洋上風力発電に対する懸念】（「わからない」・「無回答」除いて集計）

『心配である』の割合が高い項目のうち、「⑦台風や津波による倒壊や油もれによる海洋汚染」は30歳代と60歳代の心配する割合が高くなっています。「⑧事業終了後の風車の撤去」は40～60歳代、「⑩電気料金の値上がり」は50歳代と60歳代、「⑥漁業などの地域産業への影響」は30歳代で、他の年代よりも心配する割合が高くなっています。

また、「⑤鳥類など動植物、生態系への影響」は30歳代の心配する割合が8割を超えています。



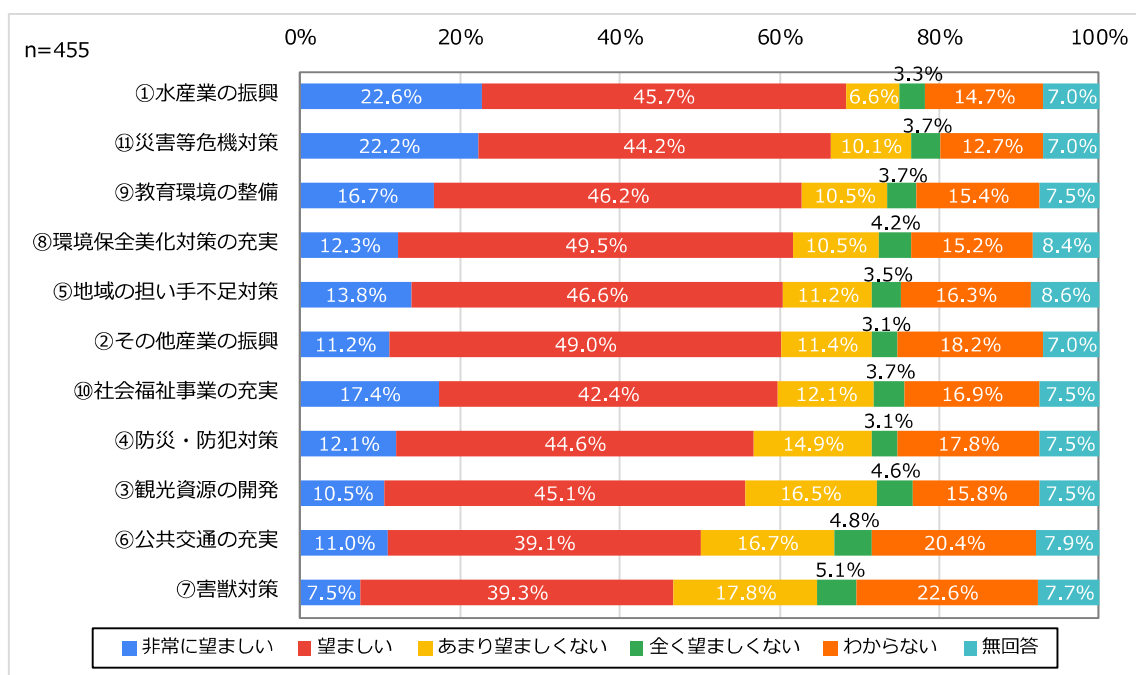
※上記の図（グラフ）は、回答者全体の「非常に心配である」「心配である」の割合が高い順に並べています。

(3) 洋上風力発電から生まれる事業収益の利用目的

IV-3 洋上風力発電から生まれる事業収益を地域の課題解決に活用できる場合、どのような目的に使うことが望ましいと思いますか。

事業収益の利用目的として、「非常に望ましい」と「望ましい」の割合が高いものは、「①水産業の振興」で68.3%を占めています。

その他に割合が高い項目は、「⑪災害等危機対策」、「⑨教育環境の整備」、「⑧環境保全美化対策の充実」、「⑤地域の担い手不足対策」、「②その他産業の振興」となっており、「非常に望ましい」と「望ましい」を合わせた割合が、それぞれ66.4%、62.9%、61.8%、60.4%、60.2%となっています。



	非常に望ましい	望ましい	あまり望ましくない	全く望ましくない	わからない	無回答
①水産業の振興	103	208	30	15	67	32
⑪災害等危機対策	101	201	46	17	58	32
⑨教育環境の整備	76	210	48	17	70	34
⑧環境保全美化対策の充実	56	225	48	19	69	38
⑤地域の担い手不足対策	63	212	51	16	74	39
②その他産業の振興	51	223	52	14	83	32
⑩社会福祉事業の充実	79	193	55	17	77	34
④防災・防犯対策	55	203	68	14	81	34
③観光資源の開発	48	205	75	21	72	34
⑥公共交通の充実	50	178	76	22	93	36
⑦害獣対策	34	179	81	23	103	35

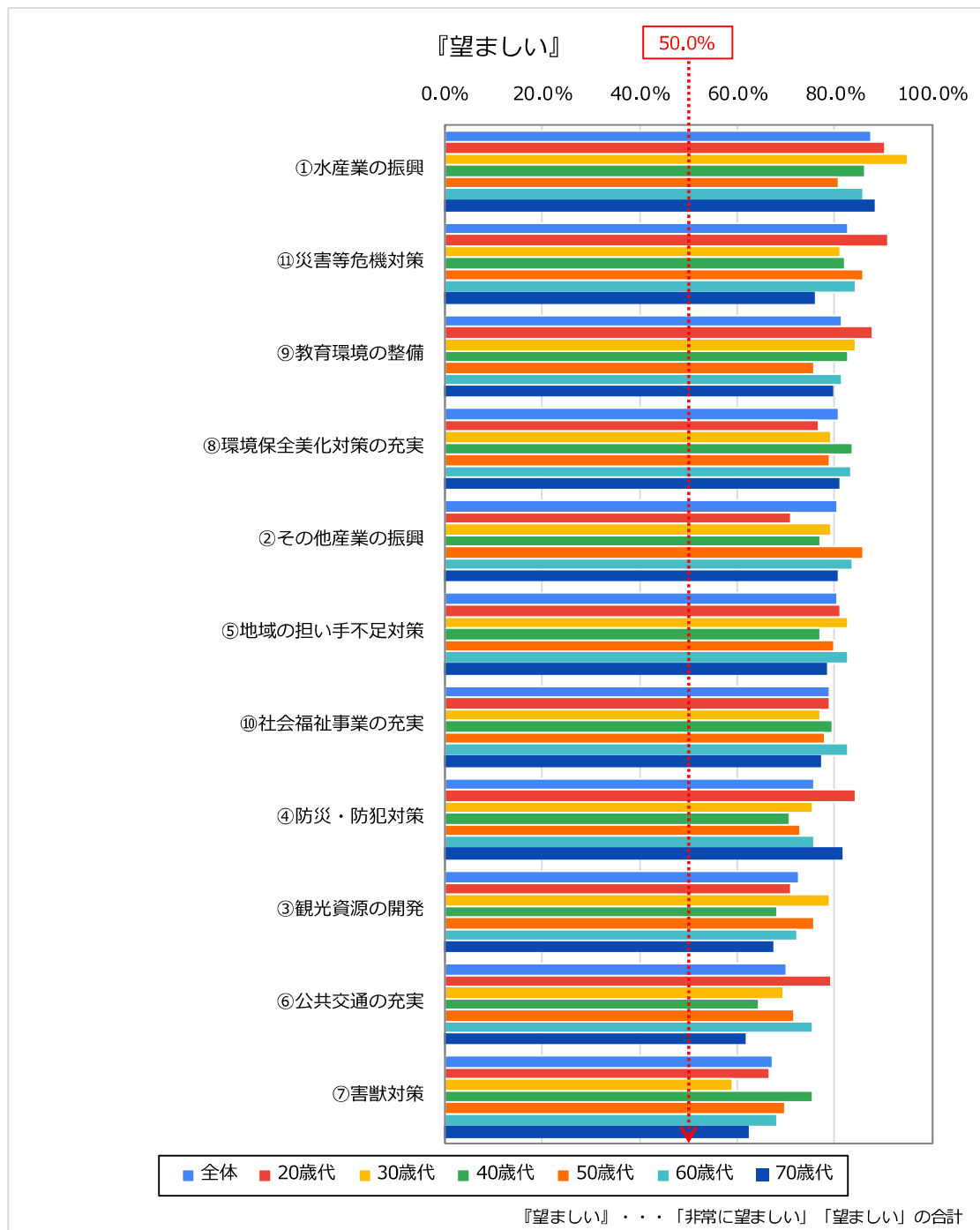
※無回答には無効回答を含む

※上記の図（グラフ）及び表は、「非常に望ましい」「望ましい」の割合が高い順に並べています。

【事業収益の利用目的】（「わからない」・「無回答」除いて集計）

『望ましい』の割合が高い項目のうち、「①水産業の振興」は20歳代と30歳代で望ましいとする割合が高くなっています。「⑪災害等危機対策」は20歳代、50歳代と60歳代で、「⑨教育環境の整備」は20～40歳代で、「⑧環境保全美化対策の充実」は30歳代と60歳代、「②その他産業の振興」は50歳代と60歳代、「⑤地域の担い手不足対策」は20歳代、30歳代と60歳代で、他の年代よりも望ましいとする割合が高くなっています。

また、「⑩社会福祉事業の充実」は60歳代、「④防災・防犯対策」は20歳代と70歳代で、他の年代に比べ、望ましいとする割合が高くなっています。



※上記の図（グラフ）は、回答者全体の「非常に望ましい」「望ましい」の割合が高い順に並べています。

3. 其他のご意見等(自由回答)

3.1. とりまとめ方法

自由回答については、内容を確認した上で意見を 3.2 項に示す 8 つの分野に分類しました。

1 つの意見が複数の分野に関連している場合は、関連する分野に振り分けを行いました。

自由意見の回答者数と分野ごとの意見の件数は以下のとおりです。

◎ 自由回答の回答者数：87 人

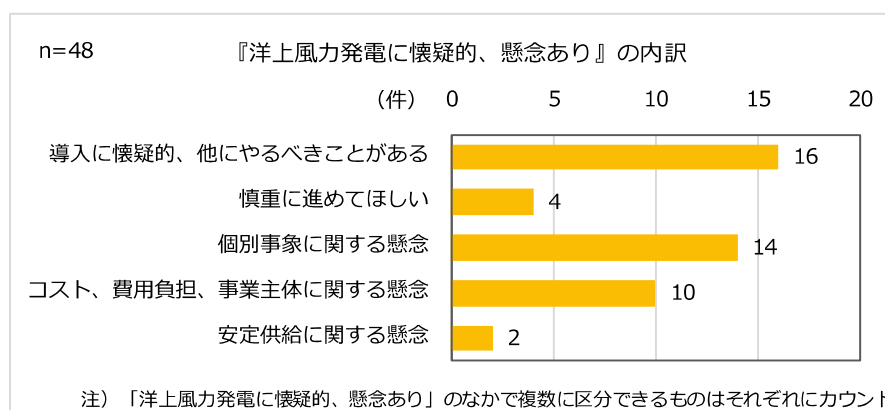
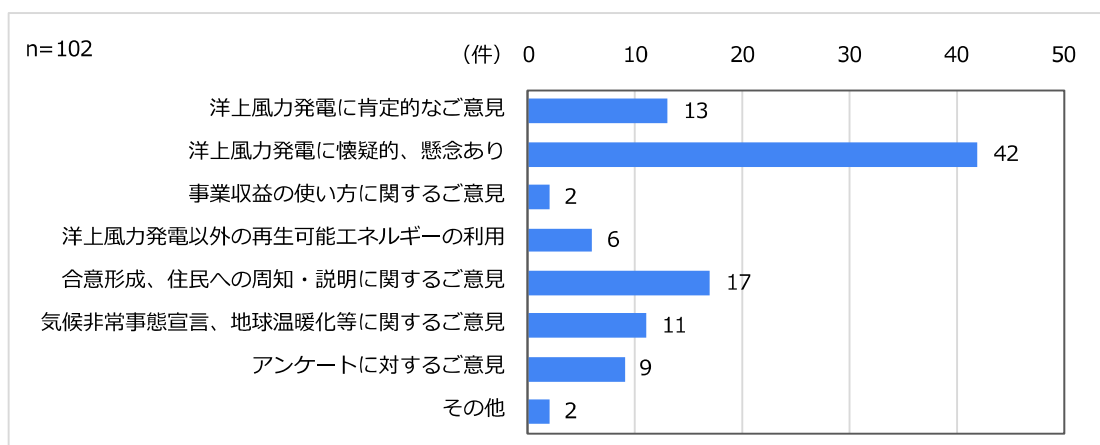
◎ 8 つの分野に分類した意見数：102 件（意見数には、重複意見を含む）

3.2. 自由回答の概要

自由回答について、87 人の回答者からの意見 102 件を「その他」を含む 8 つの分野に分類しました。

意見が最も多かったのは「洋上風力発電に懐疑的、懸念あり」の 42 件となっています。次いで「合意形成、住民への周知・説明に関するご意見」の 17 件、「洋上風力発電に関する肯定的なご意見」の 13 件となっています。

また、「洋上風力発電に懐疑的、懸念あり」の内訳をみると、「導入に懐疑的、他にやるべきことがある」が 16 件と最も多く、次いで「個別事象に関する懸念」の 14 件、「コスト、費用負担、事業主体に関する懸念」の 10 件となっています。



3.3. 分野ごとの代表的な意見(一部抜粋)

(1) 洋上風力発電に肯定的なご意見(13 件)

1	CO2 削減には非常に強い関心があったので是非とも実現してほしいです。
2	壱岐の将来を大きく左右する事業となるので、是非実現させてもらいたい。
3	温暖化・脱炭素化に向け、将来を担う子供、孫達の為にも大いに賛成です。
4	CO2 排出対策で洋上風力発電の計画を推進することに賛成です。そのエネルギーを市内で使用できるようにすると共に収益をバイオ技術等による水産業振興や陸上においても、例えば電気自動車の普及に取り組むことで地方や離島においても自然と先端技術を活用したクリーンなイメージモデルとして全国に示すことができる。 風車は 1 基作っても中途半端で景観を損なうので、複数を据えて観光資源となるだけのものにしてほしい。
5	可能性は未知数だが、SDGs 未来都市としては事業を行う価値はある。 新規取り組みにはリスクも生じる。メリット、デメリットのバランスを時代のニーズに合わせやっていくといいと思う。 10 年～20 年先の予定だが、国がカーボンニュートラルを進める上で、先行して行う事も望ましいのではないかな。

(2) 洋上風力発電に懐疑的、懸念あり(42 件)

(懐疑的、他にやるべきことがある)

1	100 年先の子孫に残るものといえば洋上発電所の処理費用のガラクタです。そのガラクタもわざわざ島外から船に乗せて運んでくるのです。その場凌ぎの政策でエネルギーの無駄だと思えます。 風が吹いていない時は発電が出来ないので緊急時に役に立ちません。それか干拓地を増やしながらか農地を増やしていくやり方もあると思えます。壱岐は遺跡のために農地が大量に減少しました。干拓を行いながら土地を増やし農地を増やしていく。複合的政策ならうまくいきそうです。雇用も生まれて産業も発展します。土地利用も住宅にしなければ騒音問題も考える必要はありません。干拓地周辺は良い漁場になります。 壱岐は主要エネルギーが火力発電で原料も海路で輸送されるため様々な選択肢としてエネルギー政策を検討することは良いことだと思います。もっと他にも検討して壱岐市全体の人の利益になるような大きな事業を国境離島として率先して行ってください。
2	良い事である事は理解出来ますが、他にやるべき事があるのでは。 失敗してからでは遅い。そのような余裕があるのですか。 壱岐市は遠い未来より近い将来の事を良く考えてほしいです。
3	私はこの件についてかなりの問題点があると考えます。 ①予算は、どこから出るのか。また施工業者の選出、地元業者は。 ②海洋資源、漁業問題、設置場所の問題。 ③壱岐市には、年間かなりのつり客などが訪れており、それらの妨げになるのでは。 ④もし、発電設備が出来たとして、今後のメンテナンス等はどうするか。 ⑤またメンテナンスに関わる費用の算出は出来ているのか。 ⑥漁業保障等の問題が発生した時はどうするのか。 ⑦台風等の自然災害での対策はどう考えているのか。 上記の他に、まだまだ問題は多数あり、単純な考えではあとあと問題が生じる事となり、見切り発車はやめた方がいいと思います。 すべての金は市民の税金と考えて下さい。市民の目線で考えて下さい。
4	洋上風力発電とは、あまりにもスケールが大きくて、この小さな壱岐の島が実際どうやって、関わって行くのかイメージが湧きづらいです。 もっと違った方法で気候変動の脅威に対処する知恵を出し合う事は出来ないのでしょうか。 目新しい事や、かつこのいい事ばかりに手を上げず、地道に、身近な所の出来る事から、挑戦した方が、賢明だと思います。

5	洋上よりも地上の方が身近に感じます。 不勉強なので、なぜ洋上の方が良いのか…まだじっくりきません。 壱岐の地上も、荒れた土地が沢山あるし、そこを整備して、風力発電を作れないのか…。 今ももちろんありますが、それを増機したり、もしくは、増機した上で洋上も並行して設置していくとか…。 けれど、設置にあたり、税金や電気料金が値上げになるのなら本末転倒の様な気がします。
---	---

(慎重に進めてほしい)

1	メリットや新しい事だという事ばかりに目を向けず、デメリットやリスクの面を考えた上で取り組むか決めてほしいと思います。 作る事も大事ですが、維持や廃棄の面で、後になって困っている前例も多々見受けられます。 しっかりとした調査や見通しを検討してほしいです。
2	経済産業省は、福島県沖に整備した浮体式洋上風力発電施設について、採算が見込めないことから、21年度中にすべて撤去することを決めた。 再生可能エネルギーとして理解はできるものの、慎重に進めていただくようお願いいたします。
3	何を計画するにもメリットとデメリットがあるものです。 さらに多くの市民の納得できること、100年先を見通した事業が必要だと思います。 人間の勝手にならないよう自然を大切にすること、一人一人が忘れてはならないと思います。 本事業が大成功しますように。
4	太陽光発電など、目覚ましい技術進歩により、低コストで、効率の良い発電が生まれつつある。 技術の進歩は目覚ましく、慌てて投資する必要はないと思う。

(個別事象に関する懸念)

1	立地において近頃鶴の繁殖地に等の運動も出てきているようなので鳥類、主に渡りをする種や海上を生活圏にしている種類への影響を考慮しているのか。
2	洋上発電は賛成だけど、生活を維持する大切なことではあるが他国から攻撃、破壊されやすいと思う。その辺の解決策はあるのか、気になります。
3	陸上にある風力発電について牛の発育に悪いとかいう事がありましたが、どうだったのかデータなどありましたら知りたいです。 風車の羽根が止まるとか、風車自体が停止したままとかテレビなどでよく聞きますが、洋上では塩害とか台風時のメンテナンスとか大丈夫でしょうか。
4	風力発電の立設で通信障害が気になります。 壱岐、佐世保間、壱岐、対馬間に立設されるとどういった影響があるのか分かりませんが(影響なしと聞いている)、海上マップでの紹介が島内であればいい。
5	近年の台風の大規模化等の自然災害において、破壊した風力発電施設を目にしますが、洋上において心配はないのでしょうか。

(コスト、費用負担、事業主体に関する懸念)

1	将来における壱岐市の維持管理費等の負担があるのかが心配ですが大丈夫でしょうか。 世界的な環境保全対策を考える上では、今後必要な取り組みにはなるとは思いますが、できるかぎり壱岐市の負担0でできる仕組みにしたいです。
2	ランニングコストをどこから捻出できるのか、海上に関しては部品の劣化速度が速いという話も聞いているので長期的な見積りが出来ているのかということ、年間における欧州と日本での風の量の違いを考慮した上で採算がとれるのか。
3	事業主体が不明。 配送電の方法は。(九電との関係) 電気料に含まれる賦課金が高くないか、これらの説明(デメリット)もほしい。
4	一部の業者の利益にならないよう、壱岐全体の発展を考えて行っていただきたい。

5	再生可能エネルギー(洋上風力発電)については既に五島等で、開始されているのは知っているが、五島の電源設備は、海底ケーブルにより、本土とつながっていると聞いている。 壱岐の場合、現在は、この設備が無い為、この設備を導入して、洋上風力を設置する為の費用を全て、国が負担するのであれば良いと思う。島民の税負担になる事は、決してあってはならない。 現在、陸上の太陽光発電(家庭用余剰買い取り)全量についても、電力会社の買い取り負担を、島民各家庭の月々の電気代に上乗せして回収するしくみは、直ちに、廃止すべきである。 再生可能エネルギーの導入にあたっては、あくまでも、自然保護を目的とする物であり、一企業、その関係機関の営利目的であってはいらない。
---	--

(安定供給に関する懸念)

1	一番の心配は自然が相手であることから、安定した供給が間違いなく保証できるのであれば良いと思う。
2	風力や太陽光では電力の安定供給は不可能ではないでしょうか(火力又は水力の利用が不可欠ではないでしょうか)。

(3) 事業収益の使い方に関するご意見(2件)

1	事業収益を電気料金の値下げに使ってほしい。
2	風力発電により自動車(全島民)も電気に替えてもらえる様な助成を希望します。

(4) 洋上風力発電以外の再生可能エネルギーの利用(6件)

1	太陽熱も各戸に補助で設置したら、どうか。
2	洋上風力発電より、各家庭の太陽光発電がよい。
3	私的には、太陽光パネル補助金の拡充、本土への電力供給のための海洋電設の早期実現を望みます。
4	ソーラー発電も考える必要あり。
5	小規模な水力発電等は考えられていないのでしょうか(ため池の水等は利用できないのでしょうか)。
6	太陽光発電の公共での整備は出来ないのか。

(5) 合意形成、住民への周知・説明に関するご意見(17件)

1	特に海洋、漁業関係者との協議は必要と思います。 具体的なメリット・デメリットの明文化と代替案の検討も予測した上での議論を望みます。 地域の人が分かりやすい点が1番必要かと思います。
2	環境への影響は十分考えられているとは思いますが、既建設地の情報等を十分周知願います。今後未来に向け、避けて通れない課題と思います スケジュールの周知等広報の充実をお願いします。
3	脱炭素化の目標は素晴らしいですが、風力発電設備の建設、メンテナンス、廃棄、トータルとしてのエネルギー収支を考えるべきであると思います。 風力発電＝グリーン・・・炭素排出 0 はありえません。きちんと、マイナス面も説明すべきだと思います、五島沖で実験されている浮体式の洋上発電等、素人の私にとっても、魅力的なものがあります。 具体的な設備、発電力、コスト、このあたりの記述も知りたかったです。
4	専門的、高度な知識や技術が必要な事業かと思いますが、設問にあった期待できることや心配されることは現実としてどれだけ現れるものなのかが、分かりにくいと思います。 例えば漁業への影響については、あまりないというように聞いていますが、このように書かれると、本当はかなり影響があるのではないかと疑心暗鬼になり易いのではないかと思います(特に水産業

	関係の方)。 同封されていたリーフレットにも影響がないことが、記載されていますので、そのような情報を利害関係者に分かりやすく説明したり、その後のフォロー等について事前協議したりしていただきたいです。
5	近海であれば、景観が損なわれると思われ、その点に不安を感じます。又、生態系への影響も、とり返しのつかないことになる前に前例等を踏まえて、住民含め、広く、話し合いを持つべきだと思います。 目先の経済や観光にとらわれず、はるかな未来を見据えた検討が必要だと思います。そのためにも、多種多様な大きな意見をすくいにとって頂きたいと思います。特に、住民は大事ですが、住民だけではなく、島出身の島外の方々などにも広く話し合いを持って頂きたいです。 強引な進行だけは避けて欲しいです。

(6) 気候非常事態宣言、地球温暖化等に関するご意見(11 件)

1	壱岐市での洋上風力発電で CO2 排出量をゼロにするが為、風車に必要な部品数 1~2 万点を作るのにどれだけの CO2 が排出されるか。 脱炭素化の取り組みは、全体での取り組みがほしい＝「気候非常事態宣言」全域
2	災害の多い日本において、原子力発電以外のエネルギー開発の推進が行われることを願っています。
3	「気候非常事態宣言」 CO2 排出量ゼロ、脱炭素化の実現等はとても危険で、作為に満ちた無意味無価値な制度です。 この地球において、「気候非常事態」など起こってはならず、ただ、種々気候変動を繰り返しているのみです。 ある種の世界の、特権的人々が作り上げた、空虚なものです。 故に、「気候非常事態」など起こってはならず、私は、これらの作為的制度に、全面的に反対です！！ 真摯なご研究を、心よりお願い申し上げます。
4	地球温暖化の影響を及ぼしていると考えられる 1 つとして日常生活にかかせない色々な洗剤があると思います。 洗剤の内容(石油など材料 界面活性剤)に問題があると思いますが、問題として検討することはあるのでしょうか。
5	4R については、理解して取り組むことができる。 CO2 排出量を抑えることに関しては、CO2 の原因となるものが理解できてない(よく分からない)ので、個人的に何をしたらよいのか分からない。

(7) アンケートに対するご意見(9 件)

1	このアンケートに関して、素人には答えることのできない質問が多く、中身のないアンケートになったのではと思います。
2	少々、質問内容に問題があるように感じました。
3	1000 人程度では全うな指標にならない。
4	洋上発電には賛成ですが、「賛成意見が多数である」という事実を示すために作成されたアンケートであると感じました。
5	洋上風力発電のアンケートを今すべきかどうか疑問です。 2050 年を目標にし、30 年後で時間が無いのは分かっていくものですが、今はコロナ対策に集中すべきではないのでしょうか。飲食業、観光業、医療など、立て直し、見直しすべき所多々あると思います。 子育てに対するアンケート(市への要望など)に何度と回答してきましたが、何一つ改善が見られません。 市役所内で課が違うでしょうが、こういったアンケートをしているだけ、形だけの様な気がします。 必要性を感じません。

(8) その他(2 件)

1	教育について質が良いのか、と最近気になります。 壱岐へ帰ってくる仕組み作りがあまりないので、高齢化が進むのだと思います。 収益よりも削減を見直しては。⇒奨学金制度(給付型)などで充実した取り組みをしてほしいです。 島外高校への進学も多いし、壱岐がいいと思えることを望みます。
2	洋上風力発電を知らなかった。

4. 參考資料：調查票

洋上風力発電に関するアンケート調査

※封筒あて名のご本人がお答えください。

壱岐市では、2019年9月25日に発出した「気候非常事態宣言」に基づき、2050年までにCO2 排出量を
 実質的にゼロにする、脱炭素化の実現に向けた取り組みを進めています。
 このアンケート調査では、市の脱炭素化の取り組みや洋上風力発電に関する意識、ご意見をお聞かせいた
 だき、壱岐市における洋上風力発電の導入可能性検討のための基礎資料として活用させていただくもので
 す。

*「気候非常事態宣言」を受けての本市の取り組みは、別紙1「気候非常事態宣言」をご覧ください。

*洋上風力発電については、別紙2「洋上風力発電を知ろう」や、

市の公式YouTubeチャンネルの「なぜ？なに？洋上風力発電！」もご覧ください。

市の公式YouTubeチャンネルはこちらご覧になれます→



I.ご自身のことについてお聞きします。

※あてはまるもの1つに○をつけてください。

I-1 あなたの年齢をお教えてください。

① 20歳代 ② 30歳代 ③ 40歳代 ④ 50歳代 ⑤ 60歳代 ⑥ 70歳代 ⑦ 80歳代

I-2 あなたの性別をお教えてください。

① 男性 ② 女性

I-3 あなたの居住地区をお教えてください。

① 郷ノ浦町 ② 勝本町 ③ 芦辺町 ④ 石田町

I-4 あなたは壱岐市内に合計で何年くらい住んでいますか。

① 1年未満 ② 1年以上～5年未満 ③ 5年以上～10年未満

④ 10年以上～20年未満 ⑤ 20年以上 ⑥ 生まれてからずっと

I-5 あなたの職業をお教えてください。

① 専業主婦、主夫 ② 民間企業(会社員、会社役員等) ③ 自営業

④ 公務員、教員 ⑤ 農業 ⑥ 林業 ⑦ 水産業

⑧ パート、アルバイト ⑨ 学生 ⑩ 年金生活 ⑪ 無職

⑫ その他「]

Ⅱ. 市の再生可能エネルギー、地球温暖化対策の取り組みについてお聞きします

※あてはまるもの1つに○をつけてください。

Ⅱ-1 吉崎市では、吉崎市周辺で発生している気候変動に伴う自然災害の増加、海水温の上昇に伴う藻場の減少、漁獲量の低下等を踏まえ、2019年9月25日に日本で初めて「気候非常事態宣言」を発出しました。

このことについて、ご存じでしたか。

- | | | |
|---------|----------|---------------------|
| ① 知っていた | ② 知らなかった | ③ 聞いたことはあるが、内容は知らない |
|---------|----------|---------------------|

Ⅱ-2 Ⅱ-1で「知っていた」、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と回答された方にお聞きします。
吉崎市の「気候非常事態宣言」について、どのような方法で知りましたか。

- | | | | | |
|-------------|--------|------|-------|-------------------------------|
| ① 吉崎市ホームページ | ② 広報いき | ③ 新聞 | ④ テレビ | ⑤ その他[] |
|-------------|--------|------|-------|-------------------------------|

Ⅱ-3 吉崎市では「気候非常事態宣言」に基づき、2050年までに CO2排出量を実質的ゼロとし、脱炭素化を実現するための取り組みを進めています。

この取り組みの1つとして、2050年までに市内で利用するエネルギーを化石燃料から、太陽光や風力などの地域資源に由来する再生可能エネルギーに完全移行できるよう、民間企業などとの連携した取り組みをさらに加速させることとしています。

吉崎市において、このような取り組みを進めていくことは大切だと思いますか。

- | | | |
|----------|-----------|-------------|
| ① そう思う | ② ややそう思う | ③ あまりそう思わない |
| ④ そう思わない | ⑤ よくわからない | |

Ⅲ. 洋上風力発電の認知度に関してお聞きします

吉崎市では、既に現在約8,000kWの太陽光発電と2,000kWの陸上風力発電が導入されていますが、2050年までに化石燃料から地域資源に由来する再生可能エネルギーに完全移行し、脱炭素化を実現するためには、それらだけでは十分な発電量を確保することができません。

このため、吉崎市では、海の上に風車を設置して発電する洋上風力発電に着目し、その導入可能性について地域の皆様とともに検討し、合意形成を進めていくこととしております。

これらを踏まえて、以下の質問にご回答ください。

※あてはまるもの1つに○をつけてください。

Ⅲ-1 陸上ではなく海上に風車を設置する洋上風力発電についてご存じですか。

- | | | | |
|-----------|-------------|------------|--------|
| ① よく知っている | ② だいたい知っている | ③ 聞いたことはある | ④ 知らない |
|-----------|-------------|------------|--------|

Ⅲ-2 洋上風力発電の促進のため、2019年4月に国により再エネ海域利用法が施行されました。この法整備により、洋上風力発電に有望な海域のうち、自然的条件が適当であること、漁業や海運業等の先行利用に支障を及ぼさないこと、系統接続が適切に確保されること、等の要件に適合した区域を「促進区域」として指定することができるようになりました。

再エネ海域利用法の施行について、ご存じでしたか。

- | | | | |
|-----------|-------------|------------|--------|
| ① よく知っている | ② だいたい知っている | ③ 聞いたことはある | ④ 知らない |
|-----------|-------------|------------|--------|

※あてはまるもの1つに○をつけてください。

Ⅲ-3 長崎県では、環境配慮・地域共生型の洋上風力発電の導入を促進するため、地域・漁業等の海域の先行利用者・関係機関との協議のもと、再生可能エネルギー導入について検討可能なエリア、環境保全を優先し導入しないエリア等を設定する「ゾーニング」事業を実施しました。

吉崎市ではこのゾーニング事業の結果を受け、吉崎市周辺海域における洋上風力発電導入の可能性について、地域とともに検討するとともに、合意形成を進めることを目的に「吉崎市洋上風力発電等導入検討協議会」を令和2年11月に立ち上げました。

長崎県のゾーニング事業や吉崎市洋上風力発電等導入検討協議会について、ご存じでしたか。

① よく知っている ② だいたい知っている ③ 聞いたことはある ④ 知らない

吉崎市洋上風力発電等導入検討協議会の開催状況は吉崎市HPでご確認いただけます。

<https://www.city.iki.nagasaki.jp/soshiki/sdgs/energy/windpower/index.html>

こちらのQRコードからもアクセス可能です→



Ⅳ. 洋上風力発電への期待・要望等についてお聞きます

海上では陸上よりも安定して強い風が吹くため、洋上風力発電は陸上に比べて効率的に発電を行うことができるとともに、適切な規模で事業を行うことで発電に必要なコストを抑え安価なエネルギー供給に貢献できるといったメリットがあります。また、風車の設置やメンテナンスのために地元の資材が活用されたり雇用の機会が増えるといった効果が期待されています。

一方で、海に風車をつくることで、漁業などの海域利用に支障が出るのではないか、生き物や景観への影響があるのではといった心配の声もあります。

これらを踏まえて、以下の質問にお答えください。

※それぞれあてはまるもの1つに○をつけてください。

Ⅳ-1 洋上風力発電の導入により、期待されることについて、どのように考えますか。

以下の①～⑩について、ア～オのうちからあなたの考えに近いものを1つずつお選びください。

	排①地球 出削減温 暖化への 貢献策や CO ₂	ギ②輸入 供給に 頼らない 確保エ ネルギー	た③地域 へ経済 波及効 果がも たらさ れる	に④風車 設置や メンテ ナンス の創出	が⑤洋上 風力発 電の景 観	ジ⑥新し い観光 や地域 イメー ジ	人⑦電力 を通じ て他地 域との 交流	用⑧環境 教育の 題材と して活 用	用⑨事業 収益を 地域振 興に利 用	下⑩地 元住民 の電気 料金の 値
非常に期待できる	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア
期待できる	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ
あまり期待できない	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ
全く期待できない	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ
わからない	オ	オ	オ	オ	オ	オ	オ	オ	オ	オ

※それぞれあてはまるもの1つに○をつけてください。

IV-2 洋上風力発電の導入に対し、心配されることや気になることについて、どのように考えますか。
以下の①～⑩について、ア～オのうちからあなたの考えに近いものを1つずつお選びください。

	① 騒音や低周波音による影響	② これまでの景観が損なわれる	③ シェードフリッカーの発生*	④ テレビの映り・電波への影響	⑤ 鳥類などの動植物、生態系への影響	⑥ 漁業などの地域産業への影響	⑦ 台風や津波による倒壊や油もれによる海洋汚染	⑧ 事業終了後の風車の撤去	⑨ 電力供給が不安定になる	⑩ 電気料金の値上がり
全く心配ではない	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア
あまり心配ではない	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ
心配である	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ
非常に心配である	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ
わからない	オ	オ	オ	オ	オ	オ	オ	オ	オ	オ

*風車の羽根を旋回させるとその影が回転により明滅する現象

IV-3 洋上風力発電から生まれる事業収益を地域の課題解決に活用できる場合、どのような目的に使うことが望ましいと思いますか。

以下の①～⑪について、ア～オのうちからあなたの考えに近いものを1つずつお選びください。

	① 水産業の振興	② その他産業の振興	③ 観光資源の開発	④ 防災・防犯対策	⑤ 地域の担い手不足対策	⑥ 公共交通の充実	⑦ 害獣対策	⑧ 環境保全美化対策の充実	⑨ 教育環境の整備	⑩ 社会福祉事業の充実	⑪ 災害等危機対策
非常に望ましい	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア
望ましい	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ
あまり望ましくない	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ
全く望ましくない	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ
わからない	オ	オ	オ	オ	オ	オ	オ	オ	オ	オ	オ

V.本アンケート等に関してその他のご意見がありましたら、ご記入ください

以上でアンケートは終了です。ご協力いただき誠にありがとうございました。
ご回答いただきましたアンケートは、同封いたしました返信用封筒に入れポストに投函をお願いします。

吉崎市における洋上風力発電の導入可能性検討の経緯や今後の方向性等、関連情報については、吉崎市ホームページ、広報誌、ケーブルテレビ、住民説明会等を通じて、市民の皆様へお知らせいたします。
今後とも、本市の市政運営にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本アンケートに関するお問合せは
吉崎市 SDGs未来課 担当：篠崎、小川まで
TEL:0920-48-1137 FAX:0920-48-1553
E-mail:iki-sdgs@city.iki.lg.jp